

【国指定・重要文化財（建造物）】

きゅうしゅうせいかんきかいこうじょう



旧集成館機械工場

昭和37年6月21日指定



- 所在地 鹿児島市吉野町9698-1
- 所有者 株式会社島津興業
- 特徴



集成館は、嘉永5(1852)年、島津斉彬が築いた工場群の総称です。大砲鑄造のための反射炉(はんしゃろ)や溶鋳炉(ようこうろ)、ガラス工場などがありました。斉彬が築いた集成館は、文久3(1863)年の薩英戦争で焼失したが、島津忠義が復興し、幕末維新时期に薩摩藩の軍事力を支えました。現存する旧集成館機械工場は慶応元(1865)年に建てられた洋式石造建築です。建物の桁行は76.9m、梁間は12.4mであり、建物の構造形式は組石造の平屋建、小屋組は木造洋小屋(キングポスト風トラス)です。建物の外壁の石積みは小野石を用いており、犬走りを神社本殿等に見られる亀腹状に作っています。その規模や構造は学術的にも価値があり、貴重な文化財です。